

経営比較分析表（平成28年度決算）

大分県 豊後高田市

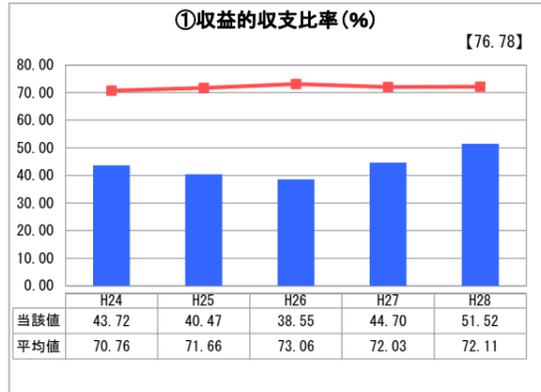
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	4.04	2,480	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
23,144	206.24	112.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
931	3.92	237.50

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



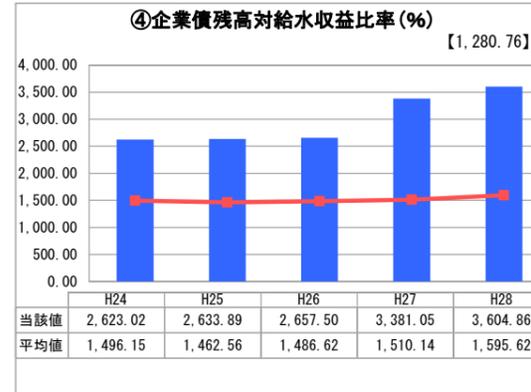
「単年度の収支」



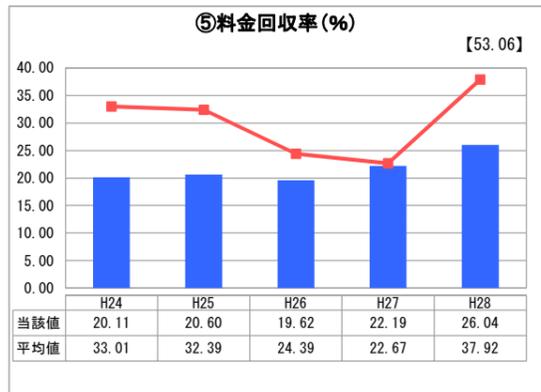
「累積欠損」



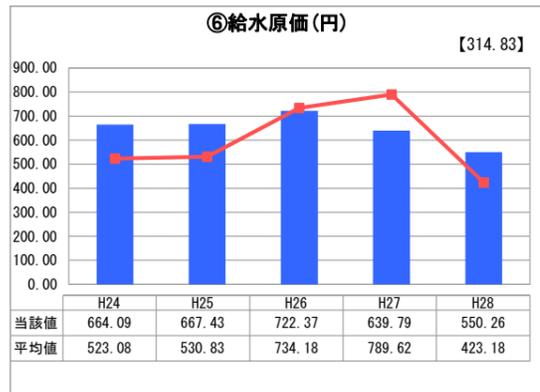
「支払能力」



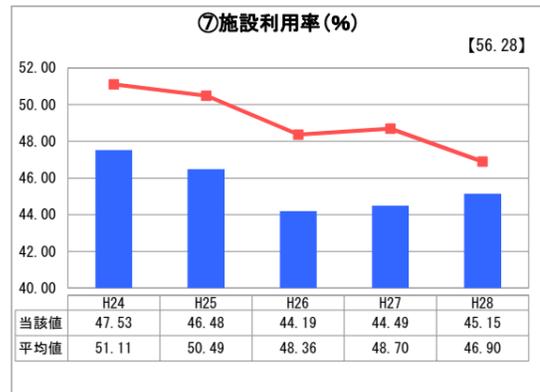
「債務残高」



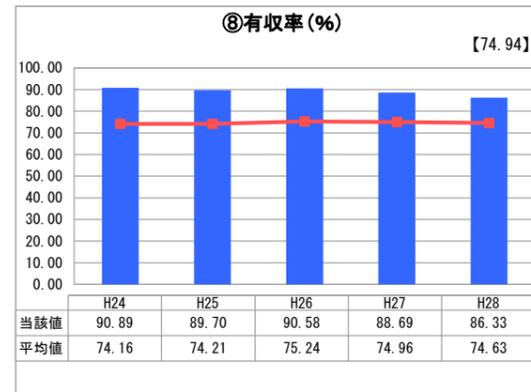
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

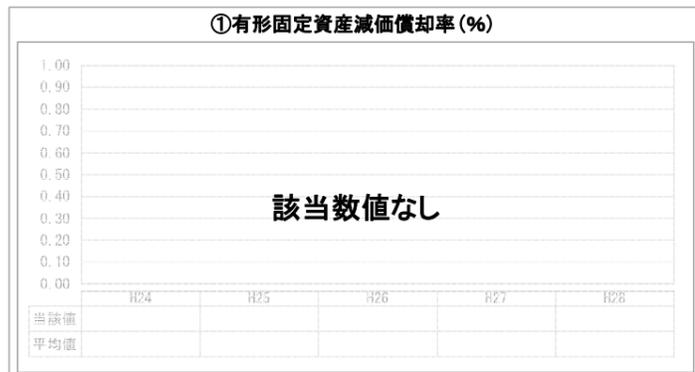


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

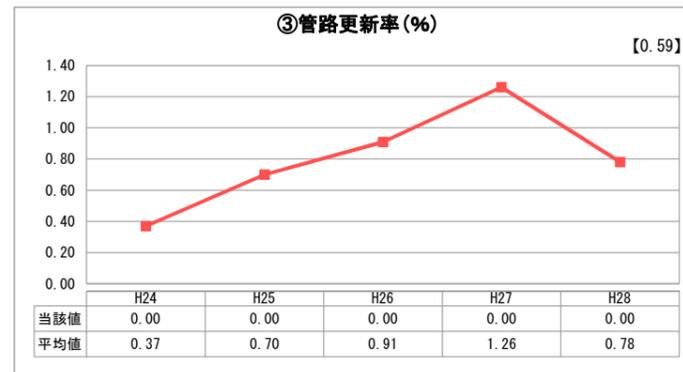
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率**
本市の簡易水道は5箇所に点在し、1か所あたりの給水人口が200人未満と少ないため、類似団体よりも収益性が低く、経営効率が悪くなっています。このため、経営改善に向け、水道事業との統合を平成29年度末に予定しています。
- 累積欠損金比率**：-
- 流動比率**：-
- 企業債残高対給水収益比率**
事業の創設が平成6年と比較的新しく企業債残高が多いこと、事業規模が小さく料金収入が少ないこと等によって、類似団体と比較して、高い水準にあります。
- 料金回収率**
本市の簡易水道と上水道は同じ料金水準ですが、簡易水道は小規模で点在しているため経営効率が悪く、上水道や類似団体の簡易水道よりも収益性が低い傾向にあります。
- 給水原価**
経常費用である企業債の償還金財源について、国で定められた基準を超える一般会計繰入金が含まれているものの、類似団体と比較すると高くなっています。
- 施設利用率**
各施設が市周辺部に設置されていることから、過疎化の進展に伴う人口減少によって、類似団体と比較して低い利用率で推移しています。
- 有収率**
施設が比較的新しく漏水(料金にならない水)は、類似団体よりも少ないと考えられます。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率**：-
- 管路経年化率**：-
- 管路更新率**
5箇所の簡易水道があり、その中で事業の創設時期が最も早いのは田染地区簡易水道ですが、平成6年と比較的新しく、現在のところ更新が必要となる施設はありません。

全体総括

本市の簡易水道は、5箇所に点在しそれぞれ事業規模が小さく経営効率が悪いため、類似団体及び上水道事業と比較して収益性が低く、公営企業としての健全性が発揮できていません。

そこで、平成21年度に豊後高田市簡易水道事業統合計画を策定し、現在、5箇所の簡易水道事業を上水道事業に事業統合する施策を実施しています。

具体的には、隣接する施設同士を接続して施設管理の一体化・合理化を図るとともに、水道事業会計の一本化による事務の効率化を図るものです。

これにより、重複する施設の廃止や事務手続き等の合理化ができるため、将来的な施設更新等の費用負担の軽減につながります。

なお、簡易水道事業統合計画では平成28年度末を目標年次としていましたが、国庫補助事業の進捗状況に伴い、平成29年度末になる見込みです。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。